

作文書き方ゼミナール

人の心に響くような作文はどのようにすれば書けるようになるのでしょうか。
一朝一夕には書けるようになりませんが、
それには大きく4つの秘訣があるのではないのでしょうか。



秘訣1

作文の基礎の基礎をしっかりと築こう！

『中学生らしく一所懸命生きて青春を謳歌することが大切』

作文の基礎の基礎、それは文章のテクニックや表現方法を磨くことではありません。
一所懸命に生きて、心豊かな体験をしつかり、いっぱい積み重ねることです。書きたいことと、伝えたいことがないのに、無理やりひねりだしても、相手の心に響く作文は書けません。青春時代は反抗期、思春期であり、憧れたり、背いたり、悩んだりしながら、友と歓喜や悔恨の涙を流したりする時期です。青春を謳歌するということは、失敗を恐れず、思いきり生き、若者らしい心豊かな体験をたくさん積み重ねることです。そうすれば書きたいこと、伝えたいことがたくさん出てきます。作文の基礎の基礎、それは中学生らしく一所懸命生きて青春を謳歌することです。

■例えば

『実体験をもとにしつかり描こう！』

高校野球のあるチームのエースが、試合の勝負どころで敬遠の道を選びました。そうしたら、「卑怯だ」などといった非難や野次を受けました。エースは、敬遠は勝つための作戦であり卑怯な手段ではないと考えていただけに、そうした非難や野次にとても悔しい思いをしました。そこで、そのときの自分の心境や考えを「敬遠は卑怯か？」とのテーマで作文に思いっきり書きました。その作文は多くの人々の心を引き付け、優秀な賞に輝きました。



秘訣2 日記を書くって！

『自分の思いを書くことに慣れる』

文章を書き慣れていない人は、文章を書くこと自体を意識し、書くことに緊張感をもったりします。また、上手に書くなどといった意識が働いて、少し書くとき読み返し、書き直したりするといった行為を繰り返したりします。そのため、なかなか進まず、ぎこちない文章になったりして、書くのが嫌になったり、書くことに苦痛を感じたりします。

そうした意識や抵抗感をなくすためには、慣れることしかありません。そして、それには、その日、その日に自分が思ったこと、感じたことなどを思いっきり書くことが効果的です。自分の思いを書くことが習慣化してくると、自分の思いを文章に表現することが楽しくなってくるから不思議です。



秘訣3 伝えることを楽しもう！

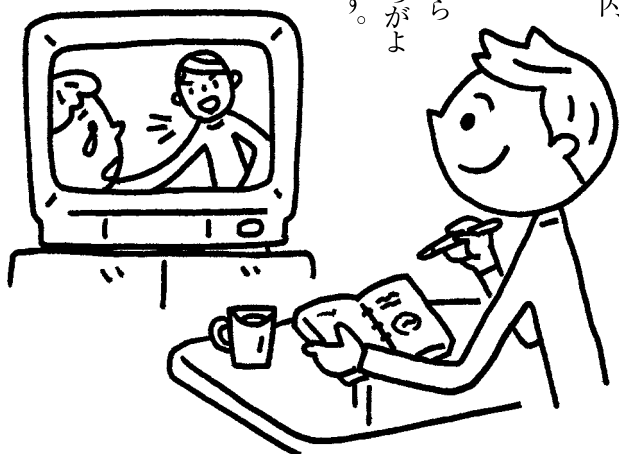
自分の思いを言葉で表現して

言葉遣いや表現することに興味、関心を持とう！

『日頃から心掛ける』

中学生の会話風景をみると、言葉というよりは単語を並べたり、身振り手振りや顔の表情などでわかり合っているように思います。親しい仲間内はよいのかもしれませんが、仲間以外の人達とは会話が成立しません。そこで、仲間内でも、アクションではなく言葉で会話し、仲間が的確な表現をしたら、ほめ合ったりしたらどうでしょうか。「そうか、こんな言い回しをすると、こんな思いがこのように伝えられるんだね」「わーうまい、この表現、気持ちがよく伝わってくるよ」など、表現を楽しむのです。

テレビや新聞、小説などを見たり読んだりするときも同様です。テレビドラマなら、台詞に注目し、上手な言葉遣い、心を打つ言葉遣いをメモしたり、心に響く新聞の投稿欄に出会ったら切り抜いたりしてみよう。どんなときにどんな言葉遣いをするか、思いが適切に伝えられるのかを学び、自分でも表現に使ってみよう。



秘訣4 作文を書くコツ！

『辞書は必需品』

作文の場合は、普段使わないような漢字を無理やり使わず、素直に表現して欲しいと思います。それには、最初は書きたいこと、伝えたいことを自分なりの表現で二氣に書いてください。そして、一通り書いてから、表現の工夫をしたり、誤字を使っていないかどうかを辞書を引いてチェックしてください。



『主語、述語の大切さ』

中学生の作文を読んでいると、4行、5行といった長い文章によく出会います。長い文の場合、その文末の述語に注目し、それに対する主語はどれかを探してみると、主語が見当たらないか、ずれていたりする場合がよくあります。

文章を書く際には、主語と述語の関係に気を配り、長過ぎず、短か過ぎずのかたちで書くことに心掛けることが大切です。あれこれの思いや事柄をつなぎ合わせようとしないで、むしろそれらをいくつかに区切つて、短めに表現することに心掛けるとよいでしょう。その方が主語と述語の関係がしっかり踏まえられ、わかりやすく、思いの伝わる文章になるでしょう。

『もう一度読み直し、チェックしよう』

一通り書き上げたら、しばらく時間を置きましょう。そして、提出する前にもう一度読み直してみよう。

タイトル、書き出しの文章はこれでよいか、この場面とこの場面を入れ替えたかどうか、この場面の表現をもっと工夫した方がよいのでは？この修飾語はちよつと…別の言葉に置き換えた方が…など、様々な点から検討してみよう。

「よし！これならば自分の思いがしっかり伝わるはずだ！」と思えるまで、最後まで頑張らしよう。





4つの秘訣をふまえて さあ、作文を書いてみましょう！

★まずはテーマを決める

課題がある時にはその課題に沿って、日頃のいろいろな出来事から印象に残っていることを書き出しましょう。基本は「身近で体験していること」。特に思いの強いこと、またはエピソードの多いものを選びましょう。

★材料を集める

テーマが決まったら、それに関して「どんな出来事があったか」「誰がどんなことを言ったか」「その時自分はどう感じたか」「自分の心が大きく揺れ動いた場面はどこか」など具体的にどんなことを書くか、集めて整理してみましょう。

★全体の構成を考える

基本的な文章の構成には「起承転結」や「序論・本論・結論」があります。後者の場合、「序論」では「自分は何について書くか」テーマをはっきりさせ、「本論」では具体的な体験や出来事などを書きます。そして「結論」で作文全体のまとめにあたる考えや思いを述べます。

★書き始める

①書き出しに工夫

印象深い思いや体験、言葉から書き始めると、読み手の興味をそそり、期待感を抱かせることができます。

②ある部分をクローズアップして描写

「最初は何々：」「次は：」「その次は：」といった説明的な展開は、文章が単調になります。自分が最も大切にしたい場面、注目して欲しい場面を強調して描くと文章にメリハリが出ます。

③感情を反映した文章に

方言による話し言葉、色や音や匂い、手ざわり、味など五感を入れた表現、感動した場面の会話を取り入れると生き生きとした文章になります。

★推敲する

文章を書き終えたら次の点をチェックしましょう。

- ・書きあげたら作文のタイトルが的確かどうか吟味しましょう
 - ・契機、転機になった部分がしつかり、的確に書かれているかチェック
 - ・「〜だ」である」「〜です・ます」が混じっていないかチェック
 - ・全体を通して、矛盾しているところがないか確認しましょう
 - ・誤字・脱字がないかチェック（はねる、止める、突き抜ける）が曖昧な文字もチェックしましょう）
 - ・言葉遣いの間違いがないかチェック
- 例／「対象」と「対照」など同音異義語の間違い
- ×「早く起きれる」○「早く起きられる」（ら抜き言葉）
- ・同じ言葉を違う表記で書いていないか
- 例／「私」「わたし」など漢字と平仮名を混せて使う
- 「表す」「表わす」など送り仮名の入れ方が違う